

私は、北海道旭川市で生まれ育ち、大学入学とともに札幌に住み 29 年になります。学生時代は、地盤工学を専攻し、多数アンカーによる補強土壁の実験的研究や Fortran を使用した 3 次元円弧すべりの斜面安定解析に携わりました。

学生当時は、北海道に拠点を置いた会社に就職したいと考えていたため、就職ガイダンスに参加した際に興味を持った、日本高圧コンクリート株式会社に入社しました。

ここでは、プレストレストコンクリート橋の設計・施工に 22 年間携わりました。業務は、国や地方自治体発注工事の設計照査及び高速道路の橋梁工事における詳細設計がメインでした。また、道内及び道外の橋梁工事現場にも従事し、設計・施工両方の経験を積むことができました。中でも、同一業務で設計と施工の両方に従事した高速道路の橋梁工事における経験は、設計業務へのフィードバックとして大きな財産となり、その経験をもとに技術士の資格を取得しました。

一方、高度経済成長期に建設された多くの鋼・コンクリート構造物が更新の時期を迎える中、コンクリート構造物の維持・補修についても重要性を感じていたため、さらなるキャリアアップと挑戦のために、現職である株式会社北海道近代設計に入社しました。現在は、前職での経験を生かし、高速道路における床版取替設計やコンクリート橋及び鋼橋の補修設計業務に携わっております。

元々、新設のコンクリート橋を専門としており、補修・補強設計、特に鋼橋に関する設計は、まさに“挑戦”となる部分もありますが、鋼・コンクリート構造物の誕生から引退までの長い道のりに携わる技術者として、技術士の名に恥じぬよう精進し、資質向上に努めていく所存です。

永野 太一 (ながの たいち)

●建設部門
(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

株式会社北海道近代設計



→次号は、密山彰浩さん(建設部門)

私は令和元年に技術士登録をして 2 年が経ちました。技術士を志したのは入社からちょうど中堅社員になったところです。当時職場や周りに技術士はいなかったので、今後の必要性を感じ、後進の育成と自身の成長の為に受験を決意しました。

技術士登録してからは、自身の資質向上のために積極的に CPD 活動に参加しています。去年の 1 年間だけでも、施設見学、講演、勉強会、話し方等の CPD 行事に積極的に参加しました。

自分の専門分野だけでなく、他部門との交流や勉強会に参加することで、部門横断的な知識や考え方や能力が身につく事が実感出来ました。日本技術士会には 21 部門の技術士がいるので、裾野が広く、これからも積極的に参加していき、ゆくゆくは CPD 認定会員を目指していきたいと思います。

これからの目標は、複数部門の取得やスキルアップ、若手の育成、リーダーシップなどがあります。

目標は大きく持っていこうと思います。常に進化する技術士を目指し、これからも活動していきたいと思っています。

最後に、私は室蘭生まれ、室蘭育ちで、地元企業のエンジニアです。金属部門で技術士登録して感じたことは、中小企業等で技術士の資格を持っている人が少ないことです。技術士試験を受験した時も、受験者の少なさに驚きました。科学技術のスペシャリストである技術士は、もっと多くの人興味を持ってもらって受験につながれば良いと思います。そのための情報発信などに積極的に協力していきたいと思っています。

大友 浩一 (おおとも こういち)

●金属部門

勤務先

株式会社キメラ

→次号は、小西正朗さん(生物工学部門)